

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	整形外科学講座(大橋):ベンチャーを目指せ
別タイトル	Department of Orthopaedic Surgery (Ohashi): Try for the venture
作成者(著者)	武者, 芳朗
公開者	東邦大学医学会
発行日	2013.03
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 60(2). p.127 128.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.60.127
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD00465808

教室(診療科)紹介 (85)

ベンチャーを目指せ

整形外科学講座 (大橋)

教授：武者芳朗
池上博泰
医局長：金子卓男

教室紹介

昭和39(1964)年に東邦大学医学部附属大橋病院が開院した。整形外科は当初、外科が兼任していたが、昭和41(1966)年に独立した。昭和44(1969)年には茂手木三男先生(現東邦大学名誉教授)、昭和50(1975)年から故飯野龍吉先生が医長を勤められ、平成4(1992)年、平澤精一先生のもと整形外科学第2講座が開設された。平成10(1998)年から水谷一裕先生、平成24(2012)年4月から東邦大学の機構改革により整形外科学講座(大橋)となり、私が引き継いでいる。

平成24年度の構成員は、教授1名、准教授1名、助教2名および大学院生1名、シニア・レジデント1名、レジデント9名である。平成25年度から教授2名、助教2名、および大学院生1名、シニア・レジデント1名、レジデント14名となる。

診療内容・特色および研究

当講座は、平成22(2010)年11月から始動した東邦大学医療センター大橋病院脊椎脊髄センターを併設している。大橋は、飯野先生以来、世田谷区、目黒区、渋谷区を中心とした山の手地区で手外科の基幹施設として地域医療に貢献してきた。さらに充実させる必要があったことから、平成24(2012)年4月から「肩・肘・手外科」のspecialist、池上先生を招聘、特殊外来が稼働している。

さらに金子先生の膝関節および砂川先生の股関節と下肢の人工関節外科は順調に稼働を伸ばし、学会やマスコミにも評価を受けている。今日われわれは脊椎・脊髄、上肢および下肢と専門分野を広げ、中枢から末梢まで診療範囲を



整形外科学講座(大橋)スタッフ

充実することができた。これは整形外科としては理想的であり、快挙といえる。今後の発展と新生大橋病院への貢献に責務を感じている。

1. 整形外科と脳神経外科が合体した脊椎・脊髄外科

脊椎・脊髄外科は脳神経外科と整形外科にまたがる領域であるが、当センターは両者が統合一体化した全国的にも数少ない施設である。両科の特徴を生かし総合的に治療にあたっている。手術には顕微鏡を用い、安全性、確実性、低侵襲性を高めている。診療上症例数の多い腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアおよび頸部脊髄症に対する独自の術式を開発し、良好な成績をあげている。頸部脊髄症の筋肉温存型脊柱管拡大術、腰部脊柱管狭窄症に対する筋肉温存型棘突起還納式椎弓形成術、顕微鏡下椎間板ヘルニア摘出術などがある。また一般的には手術療法が選択される疾患に対し当科では独自の保存療法で良好な成績を得ているものもある。腰椎椎間関節嚢腫、頸椎症性筋萎縮症(cervical spondylotic amyotrophy: CSA)、急性脊椎硬膜外血腫の保存療法などである。また腰椎部に画像診断上異常なく、神経学的にも腰椎疾患では説明不能な腰・下肢痛の一因とされる仙腸関節障害に対し仙腸関節ブロック、持続効果が得られない場合は独自の高周波による熱凝固療法を施行している。

脊椎脊髄の病気は、自然経過で軽快するものも数多くあるが、その反面いろいろな治療に抵抗して進行するものも少なくない。症状が進めば進むほど、発症してから時間が経過するほど、治療効果があがらず、治療後も元に戻らなくなってしまうため、早期診断、早期治療に努めている。

2. 肩・肘・手外科(上肢外科)

手外科分野は単なる整形外科の subspeciality の1分野を超えて専門的に独立分化し、独自に発展を遂げている。手外科分野では、上肢を構成する骨、軟骨、関節、靭帯、神経、筋肉、腱などのすべてにわたる運動器学(機能、疾患、診断、治療など)を統合的にとらえ、上肢の機能外科とし

て「肩・肘・手外科」とする新たな category が構築されようとしている。中でも上肢の人工関節，特に肘・肩関節分野ではいまだ国内においては限られた施設でのみ可能なのが現状である。この先進性に着眼し，全国に先駆けて「肩・肘・手外科」として手外科を特化している。オリジナルの人工肘関節や人工肩関節を開発し臨床応用も行い，特に上肢の人工関節置換術においては国内で TOP 5 に入る手術数となっている。また関節鏡下手術も肩・肘・手・指関節のすべてに行っている。

3. 下肢外科

1) 膝関節スポーツ外科

高齢化に伴う変形性膝関節症に対し，平成 18 (2006) 年から最小侵襲手術 (minimally invasive surgery : MIS) である人工膝関節全置換術を 600 件以上施行し良好な成績をあげている。平成 24 (2012) 年からはセメントを使用しない骨と親和性のある人工関節，Trabecular Metal™ (TM) を主成分としたセメントレス人工関節を導入している。またトップレベルのスポーツ選手に多い前十字靭帯断裂，半月板損傷には関節鏡を用いた治療を施行している。

2) 股関節外科

高齢者の変形性股関節症や若年者の白蓋形成不全など幅広い年齢層を対象とし，年齢や変形の程度に応じ保存療法や人工股関節置換術，骨切り術等の手術療法を施行してい

る。MIS により，早期のリハビリ・退院を可能にしている。各専門部門で，活発な学会活動，論文発表を重ね，実績をあげている。

教 育

卒前臨床実習は各班 1 日のみである。早朝カンファレンス，病棟回診，手術見学と盛りだくさんで，かえって強烈な印象を与えている。前期研修医には臨床現場で密着した指導を行い，後期研修では専門医の取得を当面の目標に各部門を回り，幅広い知識と技術の習得を図っている。

おわりに

整形外科，運動器疾患全般にわたり治療成績向上のために，他施設と違った独自性を追求し，言わば「ベンチャー」を目指している。常に先進性を視野に，いっそう進化した新しい術式，新技術の開発とともに，それを支える新素材を用いた新しい生体材料の開発，医療機器の応用，合併する疼痛に対する緩和治療における新しい概念，方法について，さらに研究を続けて行く。医局員は年々増員を続けており，後方病院，関連病院を充実させることで基盤を固め，ますますの向上を目指し，意気盛んである。

(教授：武者芳朗)